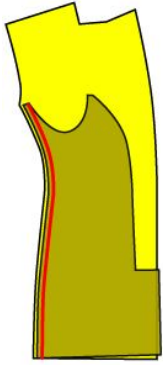


	<p>型紙のすその複数の線について。 選ぶすそによって丈の長さを変えることができます。 実際に型紙を体にあてて鏡などで確認して作りたい長さを決めてください</p>
	<p>接着芯を貼ってください。 型紙についている縫い代の印を忘れずに写してください。</p>
	<p>ジャケットのえりと見返しの関係が分からないらしいので色分けしてみました。 テーラードジャケットの特徴的なえりは折り返して作られているので、実は青色の部分は見返しなのです。 えりや折り返しの部分だけ変えたい場合はえりで見返しの部分だけ色を変えればいんですよ</p>
	 <p>えりの模様の方による見え方</p> <p>方 ストライプや柄、毛並みのある生地をイメージどおりに出したいとき。 どの向きに型紙を置いて取るかで見え方が違ってきます。 線が横方向になるように切ると着たときは縦に線が出ます。 縦に線が見えるように切ると、着たときは横に線が出ます。 おおよそ90度の角度で出るように現れます (形によって微妙に変わります)</p>
<p>■ 表 ■ 裏 ■ 接着芯</p>	<p>裁断した全てのパーツの端をほつれ止めをしてください。 指定されたパーツの裏に接着芯を貼ってください。</p>

くわしくは縫う前の下準備を参照



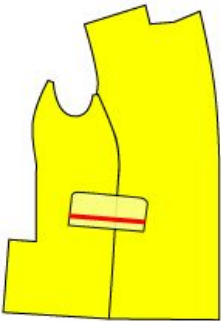
前身頃（胴体）と脇を表側同士が内側になるように重ねて1cm幅で縫ってください。



腰のポケットを作ってください。
雨ぶたを作ってください。
2枚重ねた布が内側同士が表になるように重ね縫い代を縫ってください。
布の表側同士を内側に合わせる事を中表といいます。
ひっくり返すために一部開けておく。



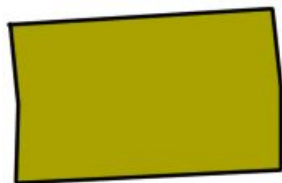
表に戻して、アイロンで形を整えてください。
端から5mmの所を縫ってください。



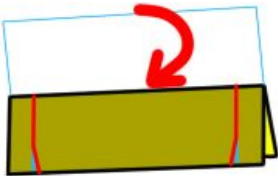
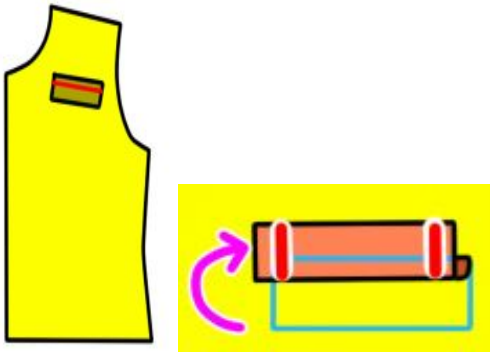
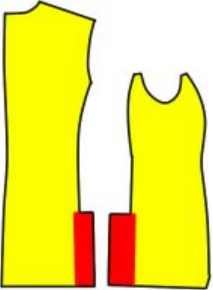

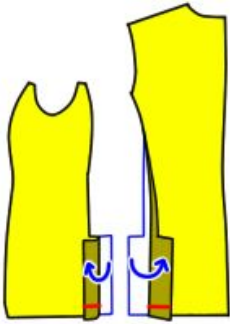
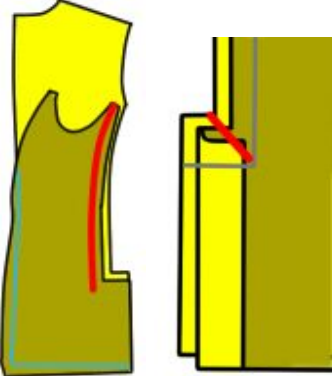

ポケットを作らず、飾りで雨ぶたを付ける場合はこのまま身頃に重ね、上側をミシンで縫ってください。



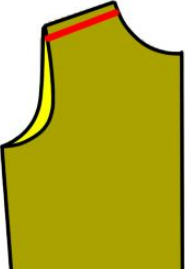

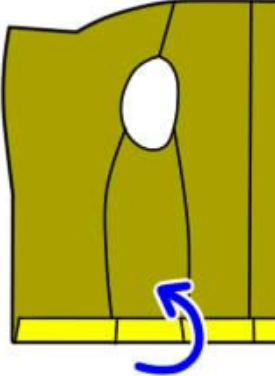




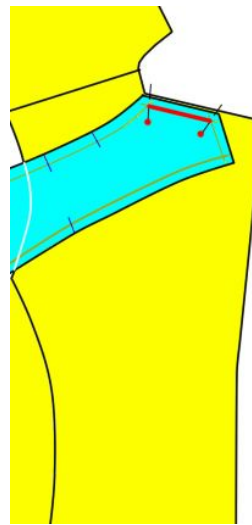
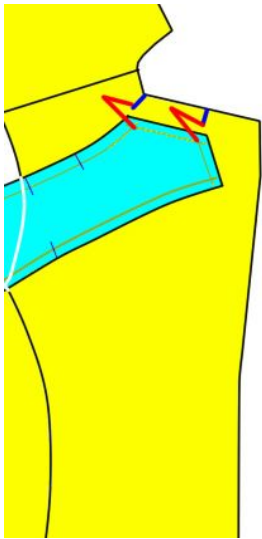
飾りではなく実際に使えるポケットを作る場合はここを参考に内ポケットを縫ってください。（難易度高め）
[玉ぶちポケットの作り方](#)



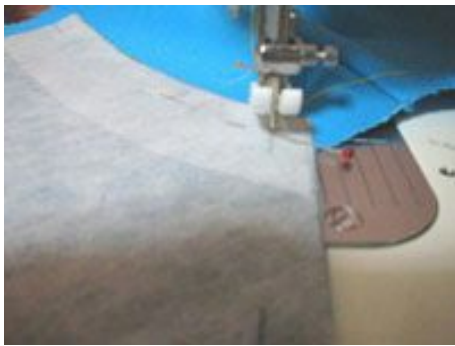
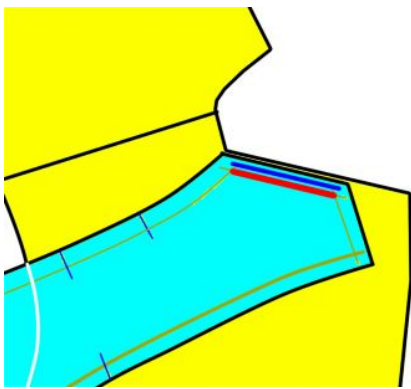
飾りの胸ポケットを作ってください。
裏側へ半分に折ってください。
両端を縫う、この時下側の縫い代部分にかかる縫い目は少し内側に向けて縫ってください。

	<p>表返し、アイロンで型をつけてください。</p>
	<p>飾りの胸ポケットは、上下逆に置いて縫ってください。 ポケットを正しい位置におこしてポケットの両脇を縫ってください。</p>
	 <p>後脇のとスリットを縫ってください。 (赤い部分の縫い方)</p>
 <p>←持ち出しが広い 持ち出しが狭い→</p>	<p>持ち出しの幅の広い方は持ち出しの真中の折り目と逆に折りアイロンで型をつけてください。 狭い方は、後ろ中心の縫い代線の延長線上を折ってください。 持ち出しのすその縫い代を縫ってください。 折ったところをひっくり返してください。</p>
	 <p>持ち出しが狭いほうは折らない。 後見頃同士を内側が表同士になるように重ねて、イラストのように後ろ中心を縫ってください。 縫い目を切らないように、縫い目の1m手前まで角に切込みを入れてください。</p>

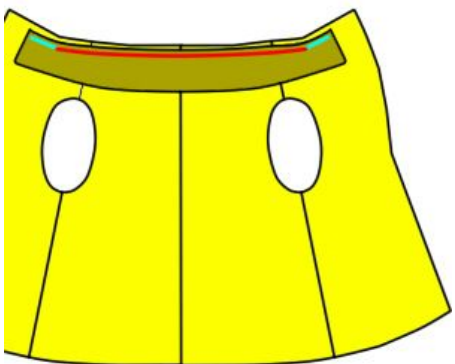
	 <p>身頃の中心のパーツを表同士が内側になるように重ねて縫ってください。 表側を内側に重ねる事を中表といいます。 縫い代は左右に折ってください。</p> <p>洋裁用語で割るといいます</p>
	 <p>肩を縫ってください。</p>
	<p>すその縫い代をアイロンで折り目を付けてください。</p>
	 <p>そのままたとえりぐりを縫うとき引きつるので、裏返して、前身頃の角に縫い目を切らないよう気持ち1ミリ残す感じで切込みを入れてください。 (衿は切らなくてよい)</p>



見返しのラペル（胸の反り返った部分）とえりの境の部分の印の切込みと、えり衿の印の位置があうように、真上からまっすぐ針を刺し、固定してください。
肩側の角も衿の印と、身頃の出来上がりの丁度交点になる所に針を刺してください。

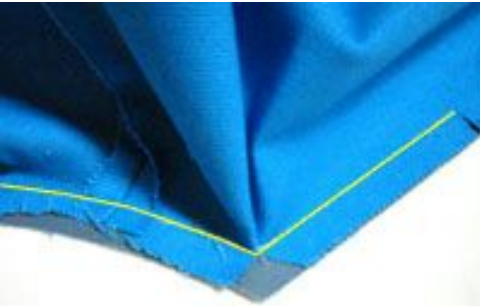
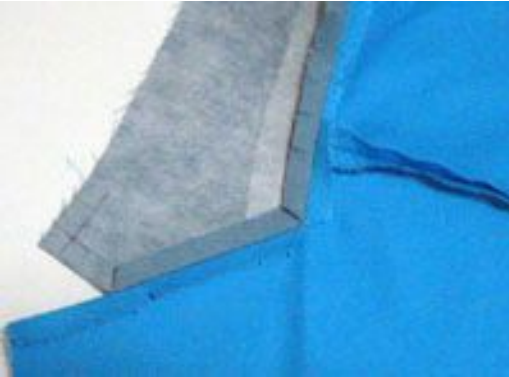

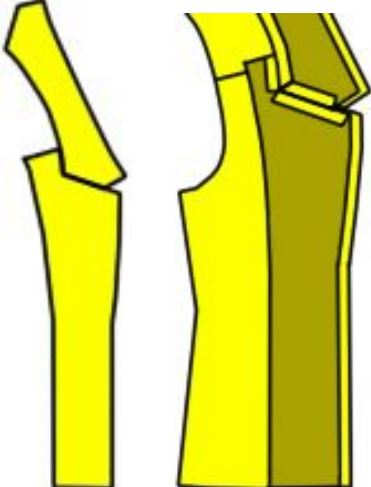
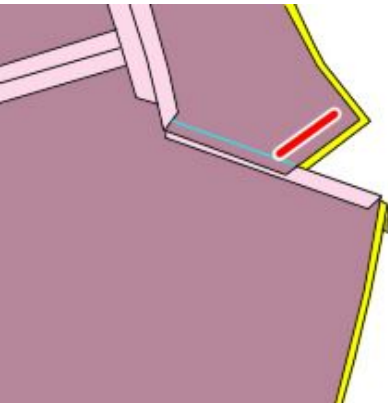



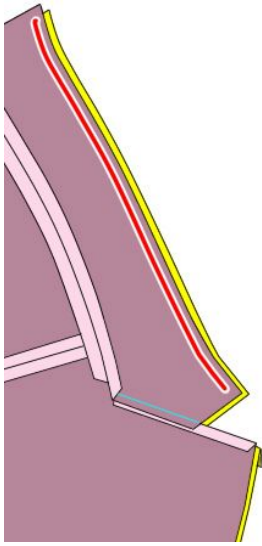
縫い始めは手動で、丁度交点に針が落ちるようにミシン針を卸して縫い始めてください。
縫い終わりも縫いすぎないように注意して、スピードを落とすか、手動でぴったり交点まで縫ってください。



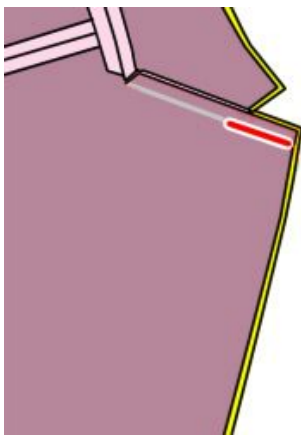
1)

1) 首の横から後ろを縫います（赤い線の部分）
ここも、ミシンで縫うラインより $s \sim 3\text{mm}$ 離れた所をしつけ糸で縫ってください
それからミシンで縫うと綺麗に縫いやすい。
2) 出来るだけずれたりしないように角がきちっと合うように縫う。
重なったりずれたりすると表から見たとき引きつったように見える。
また、余分な生地を縫いこんだりしないように、2番の図のように生地をたたんで、出来るだけまっすぐな状態にして縫うと綺麗に縫える。

 <p>2)</p>	<p>カーブの所は引きつったりゴロゴロしやすいので、ぬいしろに浅く切込みをいくつか入れておくと落ち着きます。 (身頃側も)</p>
	<p>アイロンで縫い代を左右に折って下さい。</p> 
	<p>見返しにも表と同じ要領でえりをつけてください。 身頃とえりが内側が表になるように重ねます</p>
	 <p>えりの縫い代を縫い込まないようによけて、えりの両端を、2枚合わせて縫ってください。</p>

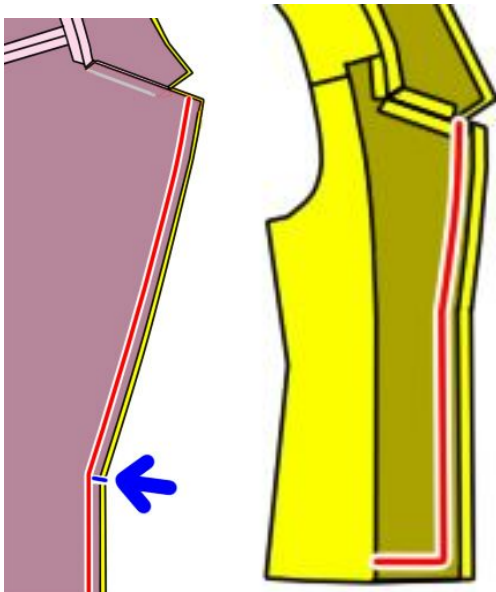


衿の上を縫います。
これも印をしっかりとあわせて縫ってください。



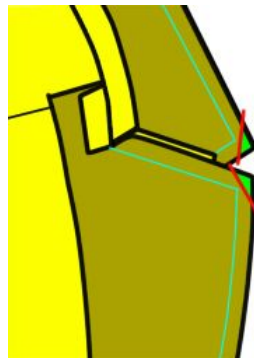
見返しの先からえりの境目までを縫い合わせます。
そして、最初に衿を縫った線と、合体するように縫ってください。

この時もえりの縫い代を縫いこまないように注意して、縫い代をよけておきましょう。

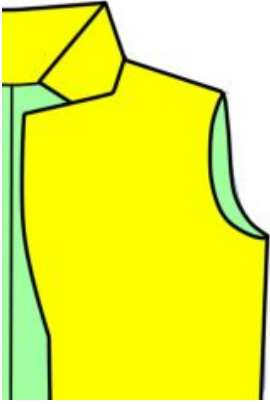


前中心を縫います。
表替えした時、角が引きつりますので、図の赤い部分に縫い糸を切らない程度切込みを入れます。
前をファスナーあきにする場合は先にファスナーを身頃に仮止めして、見返しと身頃ではさむようにして縫います。
(ファスナーの上は切り込みの位置まで

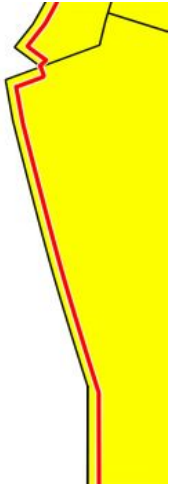
です)



表がえす時に先が厚くならないように、縫い目から2mm離れた角を切り落とす

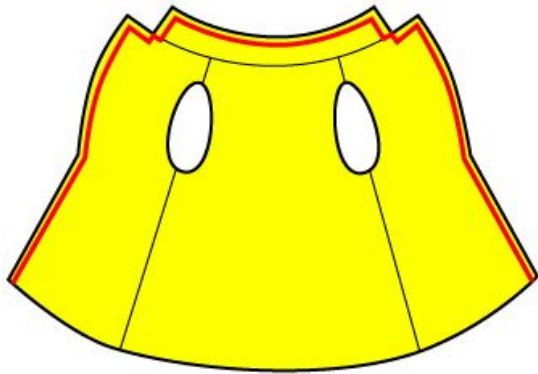


表返してください。

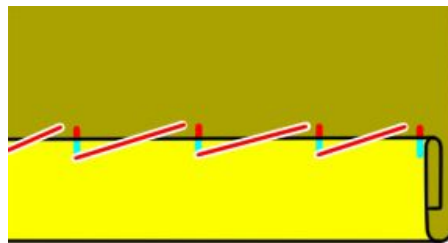


端から5mmの所をミシンで縫ってください

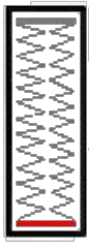
い
(こういう縫い方をステッチといいます)
こうするとシルエットがぼやけずしっかりします。



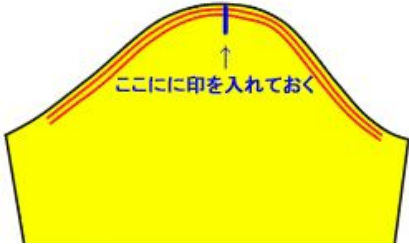
すそを縫ってください。
アイロンで縫い代を出来上がり線で折り目をつけてください。
ミシンで一直線に縫ってもいいですが、手縫いでまつってもいいです。



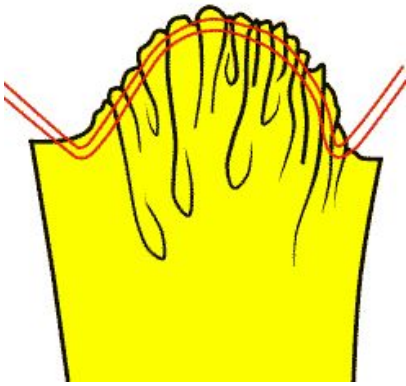
まつり縫い



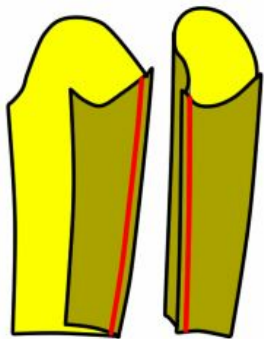
ボタンホールを作ってください。
この時点でボタンホールを開けると、そでが無い分縫いやすいですよ。
ボタンの付け方はミシンによって異なりますのでミシンの説明書をご覧ください。
[ジグザグ縫いで作るボタンホールの縫い方はこちら](#)



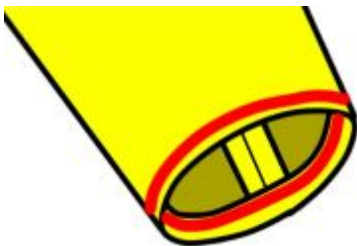
そでを作ってください。
外側のそでのそで山にはそでを立体にする為に余裕が入れられています。
ここでギャザーを寄せておかなければ、そのままつけるとあまってしまうのです。
くわしくは[縫う前の下準備](#)を参照



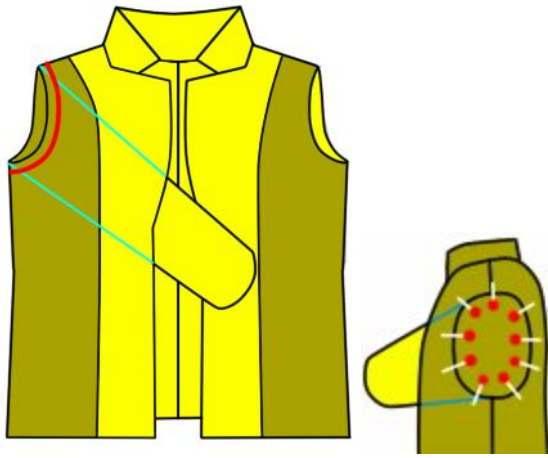
そして裏の方の長く残しておいた糸だけを引っ張りギャザーを寄せます。
(これを一度覚えておくとスカートやいろいろな事に応用がきくので、是非チャレンジしてみましょう！)



糸調整を元に戻してください。
2枚のそでを表側が中になるように重ね（中表という）両脇を縫ってください。
同じように裏地も縫ってください。
アイロンでそで口を出来上がり線で折ってください。



アイロンで縫い代を折り縫ってください。



←横から見頃（胸部分）は裏返して、そでは表にひっくり返してください。

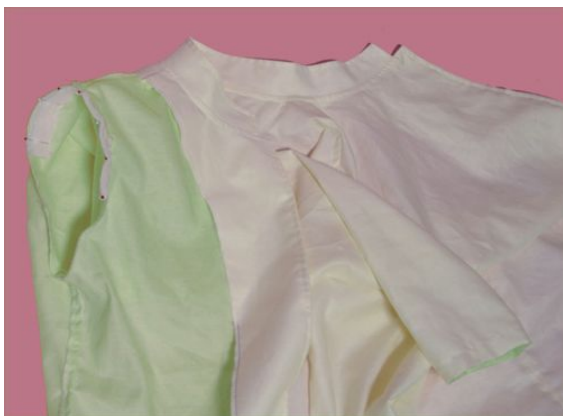


見頃の中にそでを入れてください。
 肩と、脇を最初にあわせてまち針でとめて
 ください。
 縫う場所より2～3ミリ横を仕付け糸を使
 い縫っておくと、ミシンで縫う時に針を折
 る心配がなくていいよ！
 しつけ縫いをしたらミシンでそでぐりを

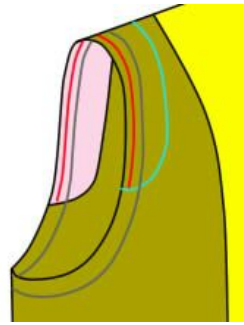
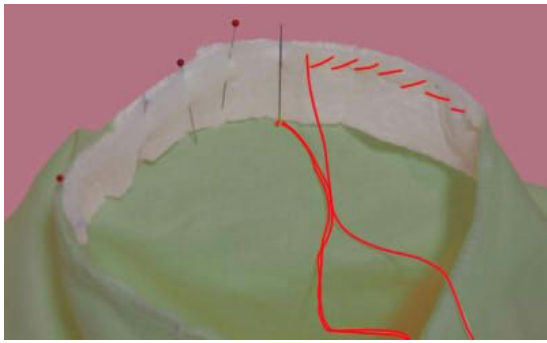
縫ってください。
 ギャザーの糸を調整して長さを合わせる。
 先に端から5mmのところを仕付け糸で縫っておくと、ミシン
 で縫う時に縫いやすい



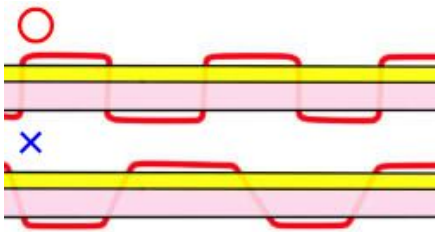
そで山に角を落としたほうがそで口側に向くように芯をつけて
 ください。



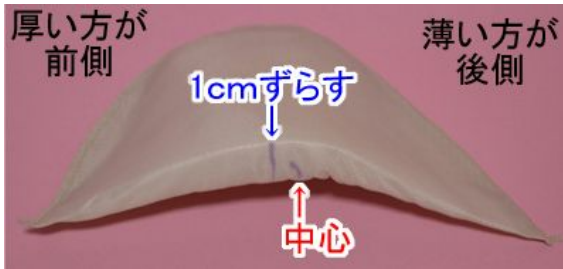
服を裏返した状態でそでの中に芯をつけてください。



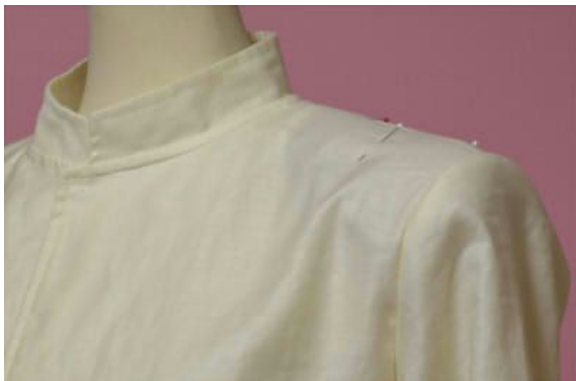
縫う場所は縫い代より外側を縫ってください。



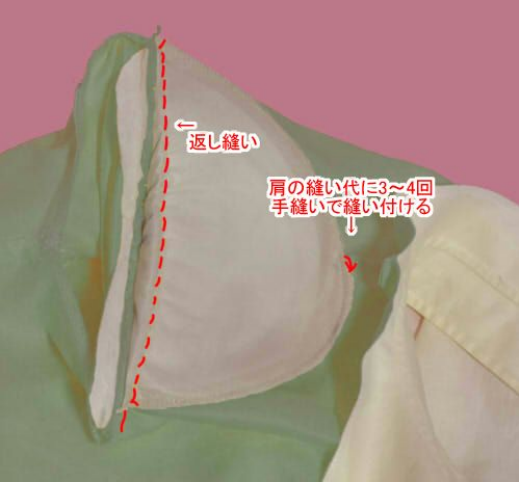
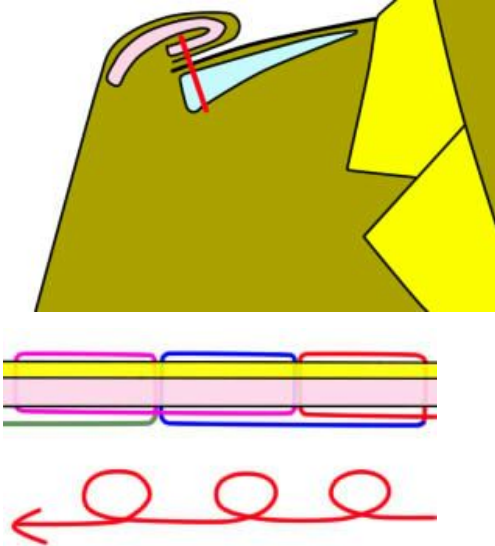
縫い方は手縫いでどんな縫い方でも構いません。ただ、出来るだけ布に対して垂直になるようにして縫ってください。



肩パットは物にもよりますが左右対称ではないものは厚みがある方が前、薄い方が後です。肩山も中央ではないので、中心より1cm前側に印をつけて、そこを肩の縫い代にあわせてください。



トルソーをお持ちであればトルソーに着せて、しわが入らないようにピンでかたパットの位置を固定してください。ポイントは肩パットを出来上がり線より5mmはみ出させる事です。これでそでが肩パットの上ののって丸くなります

	 <p>手縫いで返し縫いをしてそでぐりの縫い代に肩パットを縫い付けて下さい。 反対側は手縫いで3〜4回肩の縫い代に縫い付けてください。</p>
<p>お好みでそでなどにもボタンをつけましょう</p>	<p>ミシンのボタンホールの機能の使い方がわからないという場合は、ボタンを飾りにして、スナップボタンで固定するという方法もあります</p>

★必要な材料

生地、接着芯、ボタン、糸

★このデザインに適した生地

・ツイル

色数も多く、どこの手芸店でも比較的手に入りやすい。

初心者にも縫いやすい。

綿100%はややしわになりやすい。

ポリエステルが入るとしわになりにくくなる。

・ウール

ウールも織り方や繊維の太さで風合いが異なります。

あまり厚いと初心者は縫いにくいので普通地〜中厚地程度の生地がよいでしょう。

チャコペン（インクタイプ）で印が付きにくいので注意。

★関連説明書

縫う前の下準備